

令和 8 年 1 月 8 日

令和 7 年度 3 学期 始業式 挨拶

皆さん、おはようございます。あけましておめでとうございます。新年を迎えました。冬休みは2週間ほどの短い休業期間ではありましたが、どうだったでしょうか。暦の上では、寒の入りといって、1年で最も寒さが厳しい時期を迎えました。正月気分が抜けない人もいるかもしれませんが、今日から気持ちを切り替えて、また新たな一步を踏み出しましょう。

2学期に、あるクラスの国語の授業を見ていた際、漢文で「これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」という言葉が紹介されていました。ある対象に執着しているうちは、それと一体となった人にはかなわない、という論語の言葉です。この言葉が紹介された新聞記事では、「努力は夢中に勝てない」という言葉と一緒に紹介されていました。

皆さんの中にも何かに「努力」している人が多いと思います。決められた勉強時間をこなしたり、毎日トレーニングをしたり、自分のノルマを決めている人もいかもしれません。努力に水を差すようですが、論語によれば、皆さんのそのような努力はまだまだ、となります。努力しているうちは、勉強もトレーニングも皆さんにとっての「対象」です。もう一步踏み込んで、それを「楽しむ者」になると、更なる高みが見えてくる、と論語は伝えています。

皆さんが幼稚園や小学校のときに、誰か近くにいる大人から強制された活動はいやだった記憶があるかもしれません。一方で、自分のあこがれや単純な興味関心でもって、はじめて何かを勉強したり調べたり、身体を動かしたり道具を使ってみたりしたときに、いやいやながら始めた人はいなかったはずです。あれから10年経過した中で、目の前の「対象」としての勉強やトレーニングにいやいやながらも、理性のもとで自主的に取り組んでいる人は少なくないかもしれません。

正月は駅伝、ラグビー、バスケットボール、サッカー等の大学や高校スポーツの全国大会が開催されたり、アーティストがライブやコンサートを行ったりするのが、年末年始の風物詩となっています。各々の舞台上で活躍する姿に感動した人も多いと思いますが、そのような選手やアーティスト自身が、自分の取り組んでいるものを「楽しんでいる」ことに気づいた人もいるはずです。まさしく「これを楽しむ者」の姿です。それは正月だけでなく、皆さんが日々接している先生方の中にも、授業中に、自分の専門の中身を嬉しそうに説明したり、紹介したりしている人がいます。そのような先生方も「楽しむ者」としての理想像だと言えます。

皆さんも、「対象」に向けて頑張るだけでなく、それ自体を楽しむメンタリティも身に付けることに挑戦してみてください。そのような理由から1年の始まりに「これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」という言葉を選びました。ここにいる皆さんが、今年も、新しいことやこれまでできなかったことに、楽しみながら主体的に挑戦していける1年を送れることを、そして自分が「楽しめる」ものが見つかる1年になることを願っています。

最後になりますが、3年生は来週から共通テスト、そこから一気に受験本番を迎えます。残りの日々、試験の直前まで、こんなに勉強したことはないと言えるくらい勉強して、それでも大多数の人は準備が間に合わなかった、で始まる大学受験という大舞台、一人ひとりにとっての全国大会を大いに楽しんできてください。私からの話は以上です。